

6月に行われました十周年記念行事の日本語弁論大会の内容を紹介しています。日本語として少しおかしな部分も原文のまま残してある場合があります。

十周年記念日本語弁論大会より (連載第2回)

③台湾・黄さん

私は黄彦樵(コウケンチョウ)です。去年の十月に台湾から来ました。日本に来たとき、父は会議の予定があるので、一緒に日本へ来ました。父は以前台湾の松下電器で働いていましたから、日本語がとても上手です。

翌日は学校の寮へ行って、新しいルームメイトに会いました。部屋へ入って、部屋の隅にはいっぱいいたばこがあったし、冷蔵庫の中もいっぱいビールがありました。本当にビックリしました。ルームメイトの名前は林さんです。背が高く、怖い顔をしていました。でも実はいい人でした。親切だし、ユーモアもあり、すぐ友達になりました。私たちは料理が下手なので、いつも外で食事をしました。でもあのとき、日本語は全然分からないから、レストランに入って、いつも店員に「写真のメニューがありますか」と言いました。もし写真のメニューがないときは、笑いながら出かけました。(＊注出をいたしました)林さんと一緒に住んでいるとき、本当におもしろかったと思います。5ヶ月前に林さんの彼女も日本語を勉強するために日本に来ました。もちろん、林さんは引越しました。ちょっと寂しかったと思います。でも、すぐ新しいルームメイトが来ました。

新しいルームメイトも台湾人です。名前は丁さんです。丁さんの趣味はテレビゲームなので、台湾で住んでいたときは、日本のインターネットゲームをしながら、日本語を勉強しました。だから普通の生活会話は全部大丈夫です。

今年1月に来たとき、丁さんの体重は105キロでしたけど、一日中2食しか食べないし、めちゃかっこよく変身しました。今は80キロぐらいです。とてもハンサムですよ。今、丁さんも会場へ来ました。(紹介する。)丁さんは性格がいいし、人も優しいし、でも今は彼女がないので、もし可愛い若者を知ったら、是非紹介してください。

④内モンゴル・ウルゲンさん

私はウルゲン(ウリゲン)と申します。内モンゴル出身で、現在仏教大学院教育研究科生涯教育専攻の修士課程(二回生)に在籍しています。

2002年3月に来日し、2003年4月にアルバイトで得たお金で内モンゴルの二人の子どもの里親になりました。

日本に来る前は、内モンゴル(元巴彥淖爾盟烏拉特中旗モンゴル族中学の教師でした。内モンゴルでは遊牧民の定住化が進み、昔ながらの生活ができなくなり、その上、砂嵐やバッタの被害といった自然災害が遊牧民の生活に大きな影響をもたらした。その結果学校を中退する子どもが増えつつあります。私が来日する前、烏拉特中旗モンゴル族中学の生徒だったボ・タナさんが授業中に倒れました。原因は栄養失調でした。中学生の一人当たりの食費は、月に100元(1300円)くらいです。ところがボ・タナさんの場合は姉妹3人で3か月の生活費が100元(中国元1元13円)くらいでした。ボ・タナさんはこんなに苦しい生活の中で全自治区モンゴル族高校に進学するための試験に臨み、巴彥淖爾盟(臨河市)で成績一位でした。しかし残念ながら、経済的に余裕がなく、入学できませんでした。この件で、私はショックを受けました。それがずっと心に残り、今回の里親になるきっかけになりました。

私は去年4月から『市岡日本語教室』で日本語を勉強しています。

去年の6月に、内モンゴルの環境に恵まれないで、学校へ行けない子どもたちの実態現状を先生たちに話しました。先生たちのご了解をいただき、『市岡日本語教室』の皆様のご支援で6月の3回の募金で、40人から41625円集まりました。私はこのお金を7月に故郷内モンゴルの8人の子どもに奨学金として渡しました。

今年、皆様のご協力をいただき、『市岡日本語教室』の皆様からのご協力を含めた日本中の方々のご支援で、2006年3月から、22人の子どもに奨学金として、年間一人当たり400元(中国元)を支給できることになりました。子どもたちは、お金の問題で退学になって困っている時、あのお金の助けで勉強が続けられるようになりました。子どもたちは、心から喜んで感謝の手紙が送られてきました。



『市岡日本語教室』の皆様：
お元気ですか。

私はボルマと申します。烏拉特中旗のオンゴンソモに住んでいます。烏拉特中旗のモンゴル中学の初114班で勉強しています。

最近、雨が少なく、砂嵐とバッタの災害で家畜が食べる草がなくなり、家畜がたくさん死んでいます。それで私たちの生活に多くの影響を及ぼしているため、父は仕方なく出稼ぎをしていますが、それでも私たちが兄弟の就学を保障できず、兄が中学を中退しました。いつか私も兄と同じように勉強のチャンスをつつかと心配していた時、『市岡日本語教室』の方々に生活費をいただき、とても嬉しく思っています。どんなに生活が苦しくても勉強は一生懸命したいと思しますので、これからもどうぞ宜しくお願い申し上げます。

初114班のボルマ
2005年8月25日

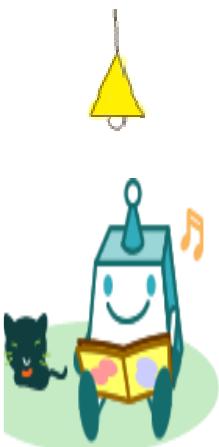
このような子どもたちの希望と熱心に応えるため、私たちもできる限りの尽力はしています。例えば、帰国するようになりたいにも、この支援を一生続けていきたいと思っています。多くの子どもたちを学校に行かせるために出来るだけ多くの方のご支援を必要としています。今後とも皆さんのお力を貸して頂ければありがたいと思います。

進んで「本」に手を伸ばしましょう！

4班 黒田 香苗

学習者の皆さん、ボランティア皆さん、今どんな「本」を読んでいますか？日本語で書かれた「物語」や「小説」を読んでいますか？それとも、絵や写真が多く載った本でしょうか？どうぞ進んで「日本語で多く書かれた『本』」に手を伸ばしてみてください！日本人にとっても、日本語を読むことは、簡単に思えて実は難しいことです。日本語には、平仮名46字・片仮名46字、そして漢字8万字以上があります。文字数だけでも驚くほどありますね。

そして「日本語を読む」ことは、「日本語を読み解く」ことでもあります。「読み解く」ためには、「言葉」が豊富に必要ですね。そこで、「本」が役に立っている間に、「言葉」を知り、覚え、そして「言葉」が増えれば増えるほど日本語で話したいことが増えていきます。また、「本」を読むことで、様々な思いや考えが表現が分かるようになってきます。日本語の細やかな表現が分かるようになってきます。日本語の文章を書くことが楽しくなりますよ。寒い季節には、暖かい部屋で、心温まる言葉豊かな読書を楽しみましょう！



☆新規ボランティア募集と

2007年度市岡日本語教室研修会要領☆

- 研修日時
2月16日(金) 午後7時～9時
ボランティア募集説明会 先輩ボランティアの体験談および市岡日本語教室の概略説明
- 2月23日(金) 午後7時～9時
来栖史江先生 講演「言葉の大切さ、話し方」
- 3月2日(金) 午後7時～9時
京都KEC学院山下先生 講演「日本語の変革、会話主体で日本語を指導していくテクニック」
- 会場 大阪府立市岡高校 百周年記念会館 (JR 弁天町南出口、地下鉄中央線弁天町6番出口より徒歩6分)
- 定員 新規募集者50名(申込者多数の場合は、次回に願います。)
- 授業日時 日本語教室の授業は毎週金曜日の午後7時～8時30分です。
- 研修会費 無料。(ボランティア登録時に入会金1,000円。年会費3,000円。ボランティア保険500円)
- 資格 継続して外国人学習者の日本語指導ができる18才以上の方。
- 申込方法、締切 2月15日までに、住所、氏名、電話番号、メールアドレスを記入の上、eメールで申し込んでください。
あて先: ichioka_nihongo@hotmail.com (eメールが使えない方はお電話ください。090-8482-1177)
- ☆継続ボランティアも必ず出席してください。
- ☆継続の方は申し込みは必要ありません。
- ☆お友達を誘ってください。
- 主催**NPO**市岡国際教育協会
- 後援***大阪府立市岡高校同窓会

有限会社 **ファイ**
顧問 二村 和義

〒538-0042 大阪市鶴見区今津中1-10-24
TEL 06-6167-1752 FAX 06-6167-1761

マンション・貸し工場

株式会社 **LUCENT・大西**
代表取締役 大西 史朗
TEL06-6584-0024 FAX06-6584-0246
E-mail: lucent@trust.ocn.ne.jp